11月1日
(金曜日)
昭和43年
振替口座番号 東京41496
定価一ヵ月500円 一部10円

慶應義塾新聞
THE KEIO PRESS

半月刊 (1日・15日)
(111)

C慶応義塾新聞
慶応義塾大学新聞会
東京都港区三田2－15－45
慶応義塾大学内 (453) 1640
発行人兼編集者 飯田 勝

山積する課題は凍結へ

米資闘争の沈滞期

米資闘争 一般的概括 全国化の視点は？

六月末に、大学の授業ボイコット反対闘争を無効にして、学生からの教育問題に関する要求をとりあげるとの方針を出した。これに対して、現在、東大・教育学部の人事問題を中心とする医学部の人事問題をからめ、学生の問題を最大の問題として、東大医学部の問題を中心とする医学部の問題を中心とする問題として、東大医学部の問題を中心とする問題として、東大医学部の問題を中心とする問題として、東大

インタビュー

白い巨塔のヤクザ集団

なによりもだめな医学部

馬場次郎（慶応義塾大学病院勤務医）

医学部の「封建性」が「白い巨塔」という言葉で象徴されだしてから、すでに久しい。昨年の醫医学部紛を含んだ全国的な規模でのインターン斗争、そして今年の初頭からの東大医学部を中心とする登録医制反対斗争は、医学部の「封建性」を充満なきまでに顕著したといえよう。今度の米軍金銭問題でも、ひとり四谷医学部の人間学に立ち上がらず、諸争の最も弱き環を構成したと言える。医学部の「封建性」についての内容を明らかにする必要があろう。そこで、本号においては、「思想と状況」シリーズの第二弾として、四谷医学部の「封建性」の実態を慶応義塾大学病院勤務の医師、馬場氏に語ってもらった。

治安対策的発想の医学部当局

「網の目」を張られている四谷

馬場　問題が起れると同時に、具体的に、何故、医学部当局が問題を起こすのか、ということが、問題の中心になるわけですが、(笑)、あの時の事件は、すでにお話ししたように、医学部当局の動向、特に浮本対応について、お話ししておけばよいわけです。

馬場　はじめの方で、医学部の問題が起れると同時に、医学部当局の動向、特に浮本対応について、お話ししておけばよいわけです。

馬場　問題が起れると同時に、医学部当局は、まず、あの時の事件、すでにお話ししたように

米資闘争　日吉ストライキ解除、新拒否宣言を採択

反スト派の集団暴力で会見延期

10・18全塾学生大会で混乱

二日(土)午前十一時より、日吉記念新館講堂において、日吉塾学生大会が開かれ約四千名の学生が結集した。しかしこの日の議題は、「米資の中から四つのものが出された。

「ストライキ解除に、新しい民主的な学生会の結成、米資の撤退、学費値上げ反対」の四つである。

十月十八日、学生大会が三田校舎で行われた。

午後、時から、三田講堂教室で、時間一杯の学生が会場を埋めた。

時間一杯の学生が会場を埋めた。

この日、学生大会は、三田講堂で行われた。

まず、大会の運営を巡り、自治会の代表が、「学生大会は、三田講堂で行われる。」と、主張した。

これに対して、反ストライキ派の学生は、「学生大会は、日吉で行なわれるべきである。」と、主張した。

この日、学生大会は、三田講堂で行われる。

「学生大会は、日吉で行なわれるべきである。」

「学生大会は、三田講堂で行なわれる。」

この「状況」へ何をぶつけようというのか

―米資闘争は学内文化活動に何を提起したか

米資金問題という「状況」が学内文化活動に問いかけた問題は、何度活動が如何に状況に関係するかということである。

状況と主体という問題は関係は、主体内部にとって切実な問題である。「相互の関係を行う時、原理の個人の放棄を（慶応日吉）」統一テーマ）という言葉は、今日的な創造行為の本質的なあり方を示している。ここでは内文化が表現形式によって表現されたと思います。三田祭を最後に何度か創造行為を現代に関係せざるを中心に展望会を画した。

（参加者）

長尾俊雄氏（三田祭・学生報待会議）
河野　隆氏（劇団・制作担当）
月見清氏（三田詩人・同人）
司会・編集部

司会　創造活動を行っている人達にとっては非常に例しと問題の出り方がかれますが、学生自身の現実の出り方が米資資金問題の起こった問題は、慶応の文化活動のあり方と対して深刻な問題を、慶応の文化活動の問題として、問題提起にかかりつつ問題としてもの問題、具体的には三田祭の為のものがこれを受けていて、解決を迫られているという